

前号に引き続き、教えて先生では、バッケンバーからご紹介します。送って頂くお悩みに、既に答えて頂いたものが多く、再度掲載しておりますので、お悩みのある方は、編集部までお寄せ下さい。

# 教えて先生



ママの悩み



子どものしつけで、ついついポカッと叩いてしまう毎日。でも、このしつけ方はあまりよくないのでは?と思うことがしばしばです。言って聞かせるにも、時間がないとつい感情的にポカッと叩いてしまいます。このことについての子どもへの影響、また、どういう叱り方が一番いいのかを教えてください。

A

相談のお子さんはおいくつですか。個人差はありますか?子どもはおおむね三歳を過ぎると、言葉で言い聞かせると納得することができます。でも二歳までは、叩いてしつけてほうがよいかというと、答えに困ります。たしかに二歳代の子どもは口で言つても通じない時は叩いて体で知らせた方が効き目がある場合もあります。でも、ついボカツと叩いてしまう毎日というのは困ります。

叩くというしつけはよくないのではないか、とわかつていて、その迷いを誰かに決めてもらいたいためのご相談だと思いますが、カツとなつてボカツと感情に走らず、一呼吸置いてからお尻を叩くとか「そんなわからずやはべんべんよ」等、少しゆとりを持つて叱つてみてはいかがでしょう。そつそつ、それがむづかしいからのご相談でしたね。

しつけのために親が叱る方法や態度は、子どもの年齢だけではなく、親・子双方の性格や性分、日頃一般論では決められません。人間は誰もそうですが、子ども

は叩かれることも、叱られることも嫌いです。なぜ叩かれたのかよくわからない場合は、叩かれるという行為に対して恐怖心を持つたで、できるようになります。

では二歳までは、叩いてしつけてほうがよいかというと、答えに困ります。たしかに二歳代の子どもは口で言つても通じない時は叩いて体で知らせた方が効き目がある場合もあります。でも、ついボカツと叩いてしまう毎日というのは困ります。

叩くというしつけはよくないのではないか、とわかつていて、その迷いを誰かに決めてもらいたいためのご相談だと思いますが、カツとなつてボカツと感情に走らず、一呼吸置いてからお尻を叩くとか「そんなわからずやはべんべんよ」等、少しゆとりを持つて叱つてみてはいかがでしょう。そつそつ、それがむづかしいからのご相談でしたね。

叱り方というのは個人的なものでむづかしいものですが、だからと言ってその場に臨んで叩くべきかどうかと悩んだ末、しつけを放置するのも困りますし、イライラしながら叩きたい気持ちを無理に押し込んだママが心の中で怒り、憎しみを感じながら不機嫌な接し方をするのもマイナス面が大きい

藤岡 佐規子先生

ふじおか さきこ



1946年、京都女子専門学校保育科を卒業後、光沢寺保育園に入職。以後一貫して乳幼児保育に従事。現在、光沢寺第二保育園園長。北九州市保育連盟会長、国際婦人開発基金(ユニフェム)日本国内委員会北九州地域等委員会会長、財団法人アジア女性交流研究フォーラム理事、同児童福祉施設等第三者評価委員会・同社会福祉審議会各委員等(以上、現職)。この間、全国社会福祉協議会全国保育士会会长、福岡県保育協議会会長・同保育士会会长、福岡県立大学・西南女学院短期大学非常勤講師等を務める。

- 中間達への定期便(西部読売開発出版部)
- 育てよう、いきいきっ子(共著、蒼丘書林)
- 子どもと環境(共著、蒼丘書林)
- 感性を育てる保育実践領域環境と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域人間関係と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域言葉と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 保育園の窓辺から…(蒼丘書林)
- 視点はいつも、子どもたち 保育園の窓辺から…PART2(蒼丘書林)

は叩かれることも、叱られることも嫌いです。なぜ叩かれたのかよくわからない場合は、叩かれるという行為に対しても恐怖心を持つたで、できるようになります。

でも二歳までは、叩いてしつけてほうがよいかというと、答えに困ります。たしかに二歳代の子どもは口で言つても通じない時は叩いて体で知らせた方が効き目がある場合もあります。でも、ついボカツと叩いてしまう毎日というのは困ります。

叩くというしつけはよくないのではないか、とわかつていて、その迷いを誰かに決めてもらいたいためのご相談だと思いますが、カツとなつてボカツと感情に走らず、一呼吸置いてからお尻を叩くとか「そんなわからずやはべんべんよ」等、少しゆとりを持つて叱つてみてはいかがでしょう。そつそつ、それがむづかしいからのご相談でしたね。

叱り方というのは個人的なものでむづかしいものですが、だからと言ってその場に臨んで叩くべきかどうかと悩んだ末、しつけを放置するのも困りますし、イライラしながら叩きたい気持ちを無理に押し込んだママが心の中で怒り、憎しみを感じながら不機嫌な接し方をするのもマイナス面が大きい

ことは、ことではへこたれない気の強い子の場合は、叱られてもさして心の痛手にはならないでしようが、気が弱く親に遠慮がちな子どもや、下の子どもが生まれる等でイラライラしていることもあります。

しかし、日々の親子関係がよければ、叩かれてもママへの恐怖心を持つこともあります。ママがなんに怒ったのは自分が悪かったからだ、これからは止めようと思うかもしれません。

叱られたり叩かれたりしていい気持ちになる子どもはいませんし、嫌な気持ちが続くと叱る大人に対して悪い感情が芽生え、しつけを受け入れようとする気持ちや態度も生まれません。

大切なのは日々の親子関係であることを、最後にもう一度くり返しておきます。誰がみても許されない行為は、親の責任愛情です。心の中が満たされない場合、注目されない、気を引きたいために、わざと叱られる行為をすることがあります。

大切なのは日々の親子関係であることを、最後にもう一度くり返しておきます。誰がみても許されない行為は、親の責任愛情です。心の中が満たされない場合、注目されない、気を引きたいために、わざと叱られる行為をすることがあります。